中部の算数・数学授業づくり　－　子供に学ぶ楽しさを！！　－

須崎市立多ノ郷小授業研究会

Report　19
H30.　10.　5

第３学年　「見やすく整理して表そう」　寺倉　凌治　教諭

前回の教材研究会を受けて，子どもが自分達の生活をよりよくしようという目的意識をもてるように，スポーツ大会という素材から「生活リズムチェック表」というデータに変えて取り組まれていました。２ つのグラフを比べたり，棒グラフを重ね合わせたりすることによって子ども達から様々な気付きを引き出し，それらを丁寧に取り上げ共有することを通して PPDAC のサイクルを回していくという授業でした。

グループ協議では「棒グラフの価値を子ども達が見出していたか」という視点で話し合いが行われました。ここでは「グラフを重ねる必然性はあったのか」「根拠をもった意見や批判的な意見も出させたかった」「グラフがなくても本時のまとめまでたどり着くことができたのではないか」等という意見が出されました。

文部科学省調査官　笠井健一先生より

子ども自らが「このデータについて調べたい！」「表やグラフを作りたい！」と思えるように，つまり PPDAC を回せるようにすることがデータの活用の授業では大切であり，子どもの問いで授業が進んでいくようにしたい。そして，教師は，どういう統計的な根拠があってその生データを扱うのかというところまでしっかりと教材研究をしておく必要がある。

＜良かった点＞
- 生データを使って子どもに目的意識をもたせようとしていた
- 子どもの思考が板書として残されており，子ども主体で授業が進んでいた

＜改善点＞
- 作成したグラフの読み取りだけではなく，目的に応じてグラフを作成すること
- ３年生が解決できる範囲内のデータで授業を構成すること

高知県学力向上総括専門官　齊藤一弥先生より

今回の改訂は，近未来をイメージし，子ども達に期待される資質・能力を育成することが強く求められている。複数のデータを１つのグラフに載せることは解説にも示されており，ものごとを多面的・多角的に分析する力，本当にこれでいいのかと批判的に思考する力が重要視されている。今回の実践でも，複数のデータを比較してどんなことが読み取れるのかを丁寧に扱っていくことや，板書を構造化することによって気付いてほしい部分をクローズアップし，子どもの思考の方向性を定めることが重要である。

授業者の声

今回の学びは大きく２点ある。１つ目は，子どもが PPDAC サイクルを回していけるように教師が授業コントロールしなければならないということ。２つ目は，単元を計画していく際には３年生の範囲で処理して結論が出るようにしなければならないということ。これからの授業実践に生かしていきたい。

参会者の声

授業の視点を論点として協議を深めることができていたと思う。校内研の参考となった。講師の先生方のお話から，改めて単元構想や子どもの求める問いをどう導き出すのか等の大切なことについての示唆が得られた。

【南中　内田加奈子教頭】

多ノ郷小学校での授業づくり講座は今回が最後になりましたが，12 月３日には窪川小学校で，12 月４日には大篠小学校で授業づくり講座（授業研究会）が開催されます。ぜひ，ご参加ください。

主体的・対話的で深い学びを実現する　算数・数学の授業づくりを目指して！！

中部教育事務所